

## 多文化コミュニケーション論

<b>担当者</b>	荒川 雪(アラカワ ユキ)				
<b>年度</b>	2022	<b>授業コード</b>	1540215001	<b>科目ナンバリング</b>	
<b>対象年次</b>	1~4	<b>授業形態</b>	講義	<b>単位数</b>	2
<b>時間割</b>	春木 2	<b>開講キャンパス</b>	白山	<b>教室</b>	6 B 1 2 教室
<b>主たる使用言語</b>	日本語		<b>実務教員科目</b>	タイプA	
<b>授業科目区分</b>					
<b>授業回数</b>					
<b>受講対象学科</b>					

### 【サブタイトル】

現代国際関係

### 【講義の目的・内容】

今日の世界はグローバル化と反グローバル化が同時に現れ、混迷しています。専門家の間では、今日の国際関係における諸相は20世紀前半に類似している部分が多いとの指摘もあります。この授業では、第二次世界大戦前から21世紀初頭までの国際関係について議論します。グローバルな視点で世界各国をめぐる国際関係の変化がもたらした影響について議論するため、本講義は日本、アジアにとどまらず、ヨーロッパ、アメリカ、ラテンアメリカ、中東やアフリカなどの地域についても学習の範囲として広げ、広い視野で現代の国際関係について議論します。

### 【学修到達目標】

国際社会、国際関係の歴史とそれによる今日への影響に関する基礎知識を身に付けてもらい、現在の国際社会における問題点を理解できるようにします。また世界各国・地域で行われた戦争や政治の変動が、国際関係に与えた影響を理解してもらう上で、他者の立場に立って問題を分析し、対処する能力を身に付けてもらいます。

### 【講義スケジュール】

- 第1回 オリエンテーション、国際関係論に関する概説
- 第2回 ヨーロッパの時代からアメリカの時代へ 1
- 第3回 ヨーロッパの時代からアメリカの時代へ 1
- 第4回 戦後を模索するアメリカと労働党政権下の戦後イギリス
- 第5回 ソ連におけるスターリン体制の再強化とドイツ第三帝国崩壊後のヨーロッパ
- 第6回 日本帝国の敗北と東アジア
- 第7回 アジア、アフリカの植民地と第二次世界大戦後の世界
- 第8回 アメリカとラテンアメリカ諸国、国連の発足
- 第9回 ヨーロッパの冷戦とアジアの戦争
- 第10回 西欧帝国主義の終幕と米ソ冷戦の継続
- 第11回 ベトナム戦争と米ソ中三国関係
- 第12回 第三世界の激動と米ソ・デタントの退潮

第13回 冷戦の終結と冷戦後の国際関係

第14回 アメリカの時代の終わり

第15回 まとめと期末試験

## 【指導方法】

春学期だけ開講します。シラバスのテーマにそって現代国際関係史に関連する事項を紹介し、関連問題について議論します。教科書とPower Pointを使つての授業となります。授業後ToyoNet-ACE上で課題と質問を出してもらいますので、授業後に出した質問について次回の授業で回答します。なお、提出された課題に対しては、質問を含む個別指導等を毎回の授業後に実施します。

## 【事前・事後学修】

授業内容を理解してもらうために、教科書の関連箇所を授業中に指示するので、必ず事前に読んでおくこと。毎回授業の後、しっかり復習し、教員の講義に対する質問・コメントを必ず提出してもらう。また授業時に教員が指示した課題についても必ず締切までにToyoNet-ACEを通じて提出してもらいます。平常点の判断基準になりますので、提出忘れがないように注意してください。事前事後学習は毎週1-2時間程度必要。

## 【成績評価の方法・基準】

期末試験 50%

平常点（授業中の議論への参加度、授業後の提出課題など）50%

★成績評価は東洋大学の成績評価の基準に準拠します。

## 【受講要件】

現代国際関係における興味がある学生なら、だれでも受講できる。授業中の議論へ積極的に参加してもらいたい。

## 【テキスト】

有賀貞著『現代国際関係史:1945年から21世紀初頭まで』東京大学出版会、2019年(3500円+税)

## 【参考書】

木畑洋一著『二〇世紀の歴史』岩波書店(岩波新書), 2014年 (900円+税)

広瀬佳一・小笠原高雪・小尾美千代編著『よくわかる国際政治』（ミネルヴァ書房）, 2021年（3000円+税）

## 【関連分野・関連科目】

## 【備考】

## 【添付ファイル1】

## 【添付ファイル2】

## 【添付ファイル3】

## 【リンク】